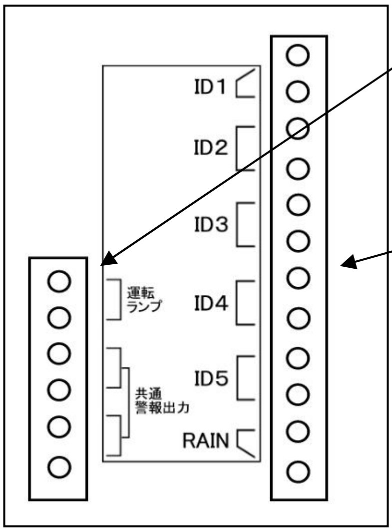
Ⅱ－５．出力端子　無電圧接点出力　（各端子　最大５A　印加電圧　AC125V　DC30V まで）



６P 端子台

・電源投入時常時 ON（運転ランプ用）

・共通出力端子×２

どの警報送信機の信号を受信しても ON になります。

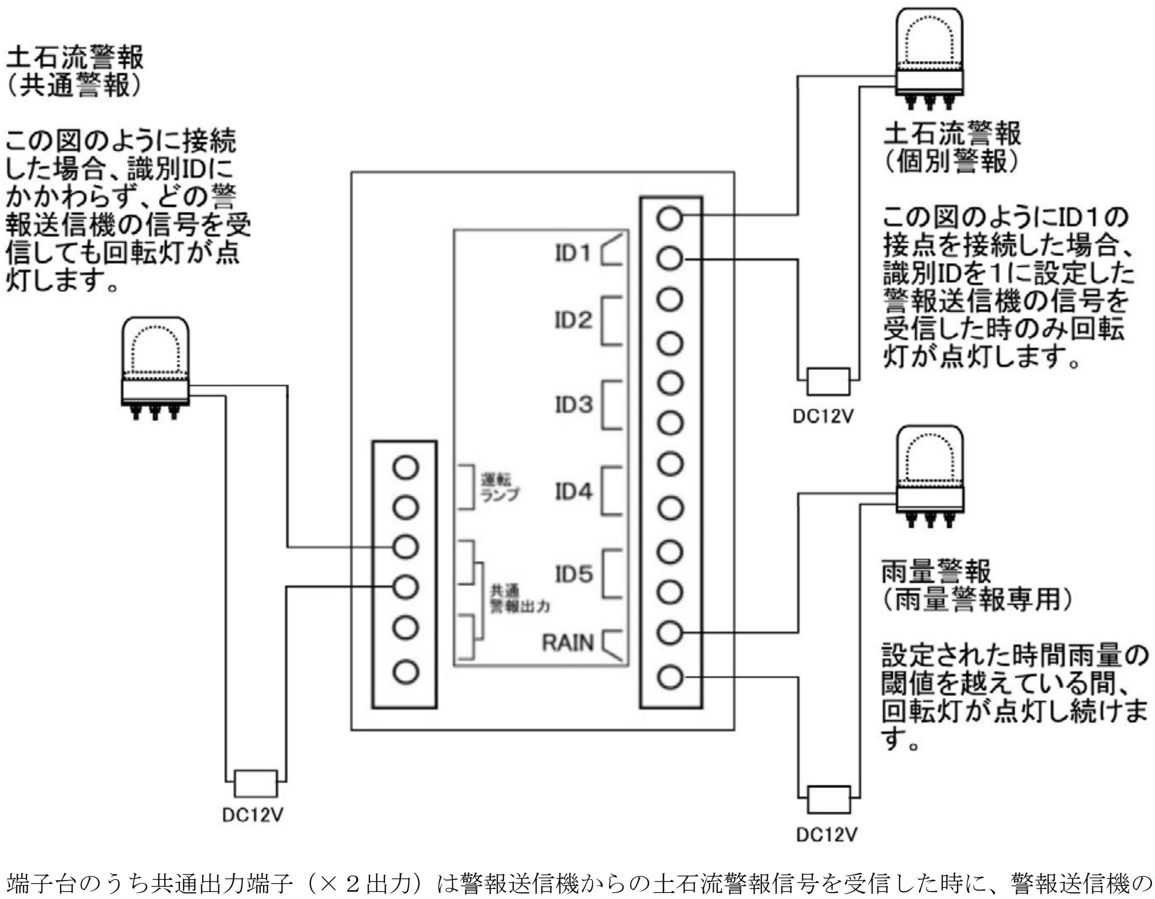
１２P 端子台

・ID１　～　ID５　（５出力）

信号を送った警報送信機の送信機識別 ID に応じた番号の出力が ON になります。

・RAIN

雨量計警報出力専用端子です。



・６P 端子台のうち共通出力端子（×２出力）は警報送信機からの土石流警報信号を受信した時に、警報送信機の識別 ID にかかわらず、どの警報送信機が信号を送ったとしても無電圧接点を与えます。

・１２P 端子台の ID1～ID５の出力端子は、各識別 ID を設定された警報送信機からの信号に応じた端子に無電圧接点を与えます。

・１２P 端台の RAIN 端子は、雨量計測を行う場合に設定された時間雨量の閾値を越えている間、無電圧接点を与え続けます。

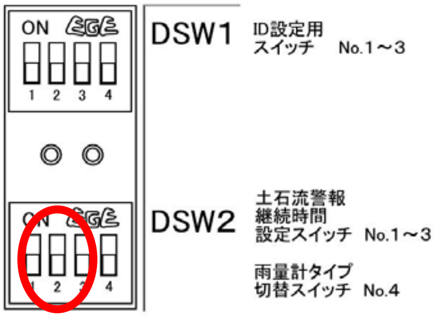
Ⅱ－６．土石流警報の継続時間

６P 端子台の共通警報出力、１２P 端子台の個別警報出力 ID1～ID5（RAIN を除く）の双方とも接点出力の継続時間を 1 分、2 分、5 分、10 分　のうちから選べます。

出力継続時間の選び方

警報受信機本体のディップスイッチ２（DSW２）の No. １～No. ２ を下表のように切り替えることで継続時間を選びます。

継続時間	No. 1	No. 2
1 分	OFF	OFF
2 分	OFF	ON
5 分	ON	OFF
10 分	ON	ON



警報出力の継続時間を 10 分より長くしたい場合は、別途警報機の結線途中にタイマー（オプション）などを入れて警報を継続させます。但し、警報機が独立電源に接続されている場合、警報機の継続時間は独立電源のバッテリー電力残量の範囲内となり、継続時間はその時のバッテリー電力残量と使用する警報機の消費電力によって変わります。

Ⅱ－７．雨量計測について

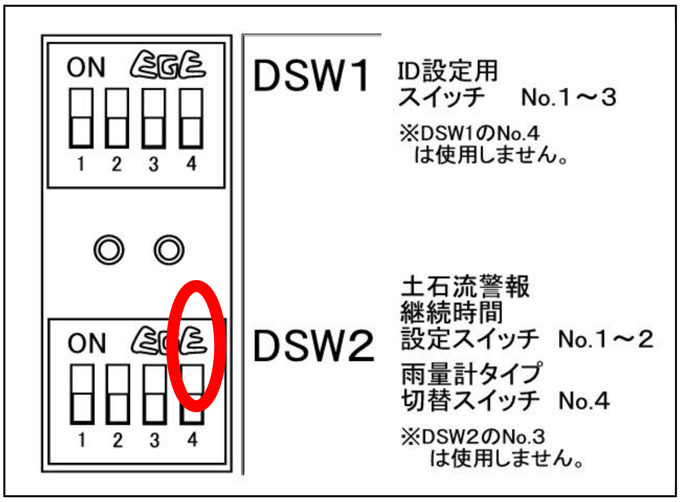
警報受信機で雨量観測や雨量警報の発報を行うためには警報受信機に転倒枡式雨量計（オプション）を接続する必要があります。

接続する雨量計のタイプ設定

転倒枡容量が 0.2m l か 0.5m l かを設定します。ディップスイッチ２（DSW 2）の No. ４スイッチを以下に従って設定します。

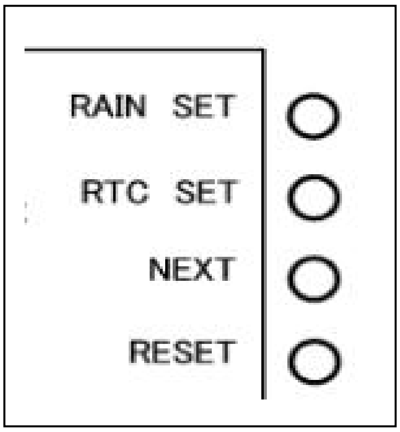
転倒枡が 0.2 m l の場合　OFF（下）

転倒枡が 0.5 m l の場合　ON　（上）



Ⅱ－８．雨量計の設定スイッチについて

液晶パネルに表示される日付・時刻・時間雨量などの設定は右図の 4 つのボタンスイッチで行います。



・RAIN　SET ボタン（白）　：長押しで雨量警報設定画面へ

・RTC　SET ボタン（白）　：長押しでカレンダー設定画面へ
　設定画面時はカーソル右移動（右のみ）

・NEXT　ボタン　（青）　：表示の切替え
　設定画面時は数字 UP（増加方向のみ）

・RESET　（ボタン無し）　：雨量表示のリセット
　（誤押を避けるため上部のボタンはありません。先の細い棒で中心を押します）

注）RESET スイッチは観測した雨量（本日の雨量、昨日の雨量）をリセットします。決まった時刻から雨量観測を行う場合などに初期値（0.0 ㎜）に戻す目的で使用します。観測中にこのスイッチを押すとそれまで観測した雨量データが消去されますのでご注意ください。

Ⅱ－９．雨量計設定方法：雨量計（オプション）を接続した場合

通常表示（図１）は右図１のようになります。
上段：月日・時刻
下段　降り始めからの雨量・本日の雨量（累積）



図１

Ⅱ－９―①．雨量警報閾値設定

1. RAIN SETボタンを長押しすると表示が「Set　Rain Alarm 」になります。(図２)



図２

２．RAIN　SETボタンを離すと時間設定画面になります。（図３）



図３

３．RTC　SETボタンを押すと数字の下のカーソル（^）が右に動きます。
カーソルを変えたい数字の下まで移動させます。
注）カーソルは右にのみ動きます。通り過ぎた場合はさらに進めて最初の表示（通常表示）に戻してやり直してください。

４．RTCボタンを変えたい数字の下に移動させたら、NEXTボタン（青）を押して数字を変えてください。（図４）
注）NEXTボタンでは数字が増加する方向のみ変化します。通り過ぎた場合はさらに進めて０に戻してください。



図４

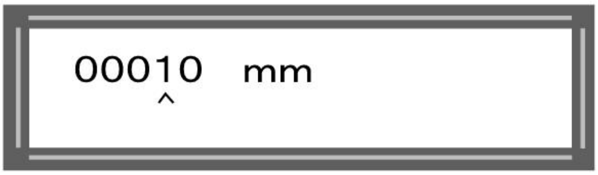


図５

５．数字を変更したらRTC　SETボタンでカーソルを右に移動させ続け、通常表示に戻します。

Ⅱ－９―②．カレンダー設定（日付・時刻の設定）

１．RTC　SETボタンを「Adjust Calendar」の表示が出るまで長押します。(図６)



図６

２．RTC　SETボタンを押してカーソル（^）を移動させNEXTボタンを押して年月日と時刻を合わせます。（図７）
注）カーソルは右にのみ動きます。通り過ぎた場合はさらに進めて最初の表示（通常表示）に戻してやり直してください。
注）NEXTボタンでは数字が増加する方向のみ変化します。通り過ぎた場合はさらに進めて０に戻してください。

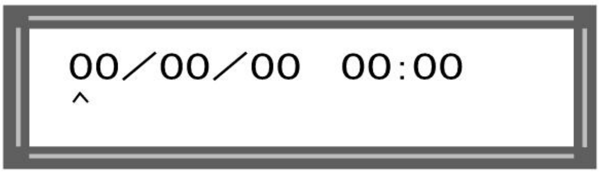


図７

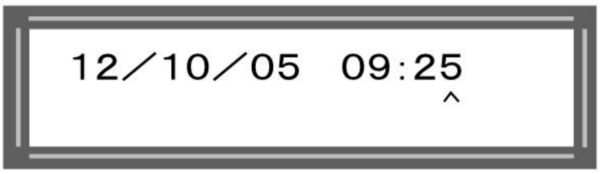


図８

３．RTC　SETボタンを押してカーソルを右に移動させ続けると「Finish」の表示が出てカレンダー設定が完了し（図８）通常表示に戻ります。



図８

Ⅱ－９－③　NEXTボタン（青）による表示切り替え

通常表示の状態からNEXTボタンを押すことにより表示を切り替えることができます。(通常表示を含め８種類)

通常表示

日時（月日時分秒)・降り始めからの雨量・今日の雨量



↓

NEXTボタン

↓

昨日の雨量（mm）

深夜0：00で切り替わります。



↓

NEXTボタン

↓

降り終りの雨量（ｍｍ）

累積雨量



↓

NEXTボタン

↓

土石流警報（アラーム）受信

土石流警報を受信した時刻（年月日時分）を表示します。



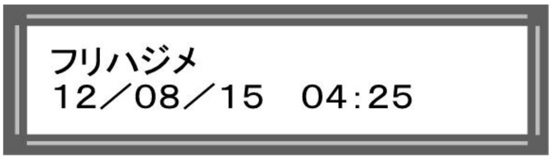
↓

NEXTボタン

↓

降り始め時刻

降り始めの時刻を表示します。



↓

NEXTボタン

↓

降り終り時刻

降り止んで24時間後に確定します。



↓

NEXTボタン

↓

時間雨量（mm）

過去設定時間内の雨量を表示します。



↓

NEXTボタン

↓

時間雨量警報

雨量警報の出た時刻（年月日時分を表示します。



↓

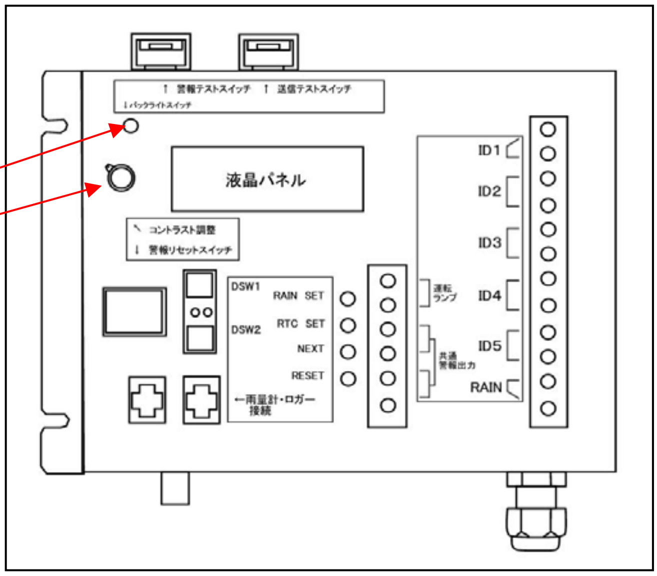
NEXTボタン

↓

通常表示に戻ります。



Ⅱ－１０．液晶パネルの調整



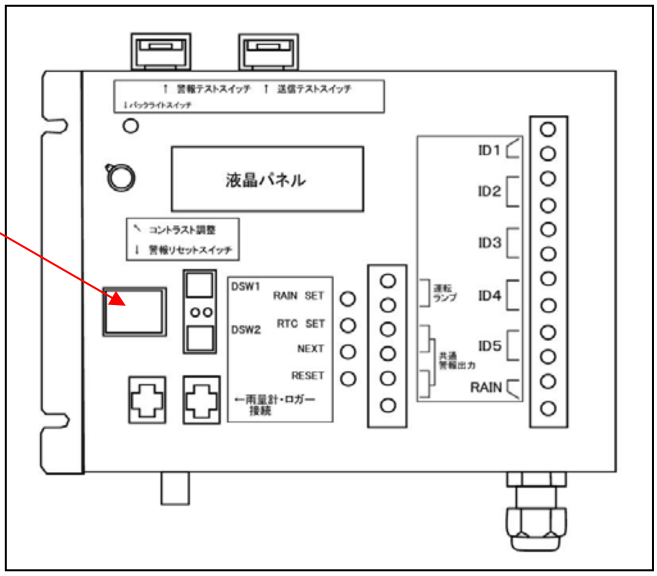
液晶パネルの左側に液晶表示調節用のコントラスト調整つまみとバックライトスイッチがあります。

バックライトスイッチ
コントラスト調整つまみ

液晶表示は周囲温度によって影響を受けますので、表示の文字が見えにくい場合はコントラスト調整つまみを回して調節します。

周囲が暗くて表示が見えにくい場合は、バックライトスイッチを押し、バックライトを点灯させます。ライトは約 10 秒間点灯して自動的に消灯します。

Ⅱ－１１．警報リセットスイッチ



警報解除スイッチ

警報解除スイッチは警報送信機からの警報信号を警報受信機が受信すると点灯します。
注）雨量警報では点灯しません。

警報解除スイッチを押すと土石流警報（共通警報出力端子、個別警報出力端子）の出力が解除されます。
（雨量警報は解除されません。雨量計報は時間雨量の閾値を越えた雨量が続いている間、出力が継続します）

Ⅱ－１２．土石流警報と雨量警報の違いについて

土石流警報は警報受信機が警報送信機からの信号を受け、共通警報出力または個別警報出力を出力することにより警報機を動作させるものです。この警報は警報リセットスイッチで解除できます。
雨量警報は、警報受信機が時間雨量設定の閾値を越えた雨量が続いている間、継続します。これは警報リセットスイッチでは解除されません。また、時間雨量設定で設定された時間を現時点から遡って累積された雨量が閾値を越えている限り出力は解除されません。

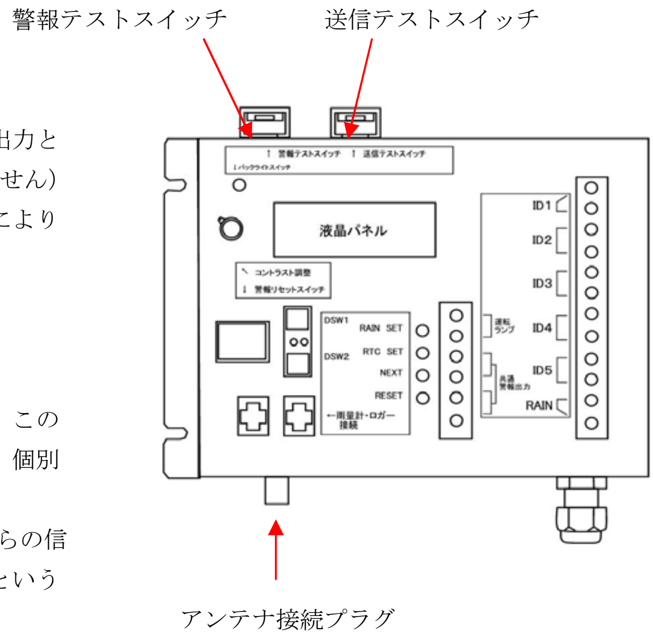
例えば、時間雨量設定を１時間あたり３０ｍｍと設定した場合、ある時刻から１時間過去に遡った間に観測された累積雨量が３０ｍｍを越えている間、警報出力は続きます。その時刻に雨が降っていなくても過去１時間に閾値を越えた累積雨量があれば警報出力は続きます。

このため、土石流警報と雨量警報に使用する警報機は分けておくことをお勧めします。

例えば、**土石流警報はパトランプとサイレンの両方**が動作、**雨量警報はパトランプのみ点灯**のようにします。

Ⅱ―１３．テストモード選択スイッチ

テストモード選択スイッチには警報テストスイッチと送信テストスイッチがあります。



・警報テストスイッチ

警報テストスイッチは警報送信機とは無関係に共通警報出力と個別警報出力の両方を出力します。（雨量警報は出力しません）このスイッチは警報受信機と接続した警報機が接点出力により動作するかどうか確かめるために使用します。

・送信テストスイッチ

送信テストスイッチを押すとスイッチが黄色に光ります。この状態で警報受信機が警報送信機からの信号を受信すると、個別警報出力は出力しますが、共通警報出力は出力しません。

共通警報出力に警報機が接続されている場合、送信機からの信号受信を確認したいが警報機は動作しないようにしたいという場合などでこのスイッチを押しておきます。

Ⅱ－１５　付属アンテナについて

警報受信機本体下側にアンテナ接続プラグがあります。

付属アンテナをアンテナ接続プラグに接続し、防水ケースの外側に設置します。

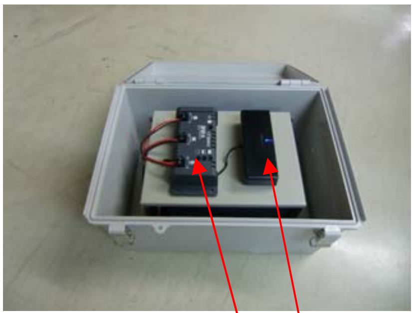
アンテナは基部がマグネットとなっていますので、金属板などがあればそのままマグネットで固定できます。金属面が無い場合は両面テープや布テープなどで防水ケース上面などに基部を固定します。

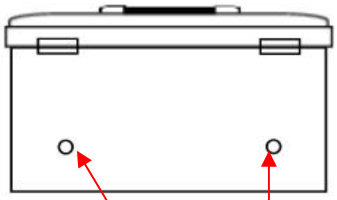
独立電源装置（蓄電用バッテリー＋制御装置＋ソーラーパネル）

Ⅰ．各部の名称

独立電源







独立電源　外観　　（蓋を開いた状態）　　（背面）DC12V 出力端子

制御装置　　DC12V 入力端子

DC12V 出力端子シガーソケットタイプ（他の DC12V 機器を接続可能）

ソーラーパネル　10W タイプ

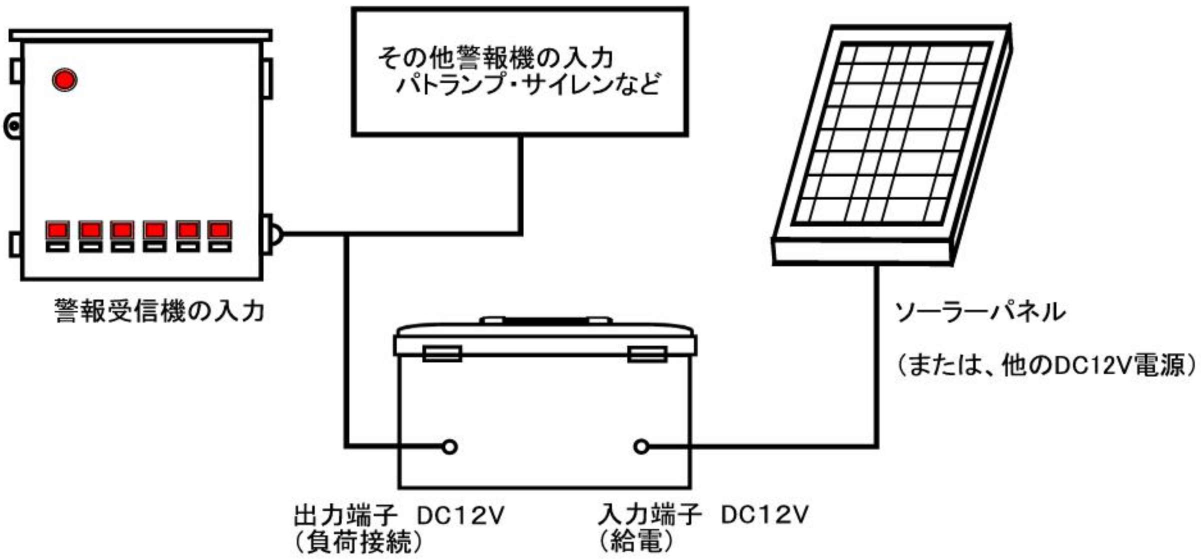




ソーラーパネル表面　1　　ソーラーパネル裏面

Ⅱ．接続方法

独立電源と土石流警報受信機は背面の専用プラグで接続します。



- 入出力の誤接続を避けるため、独立電源と土石流警報受信機との接続は３P プラグ、ソーラーパネルとの接続は２P プラグにしてあります。
- 独立電源と 10W ソーラーパネルとの組み合わせで土石流システムは約３０日の不日照に対応できます。